

3 学会統合に関する会員アンケートの結果報告

繊維学会会長 荻野 賢司

平素は繊維学会の諸活動にご協力いただき誠にありがとうございます。

2022 年 7 月に理事会より日本繊維機械学会、日本繊維製品消費科学会との統合を発議し、同 9 月に皆様の議決権行使により賛否を問わせていただきましたが、必要な賛成票数に至らずに議案は否決されました。会員の皆様には多大なるご心配をおかけしたことを重ねてお詫び申し上げます。この結果を受けて学会として今後どのように進んでゆくべきなのか継続して検討しているところでございます。その議論の参考とするために、今回の議案に対する会員皆様のお考えを調査するアンケートを実施させていただきました。そのまとめを報告させていただきます。

1. 会員アンケート実施概要

アンケートは 413 件の回答をいただきました。アンケート実施時点（2023 年 1 月 18 日）での正会員数が 1055 名でしたので、39%の回答率となります。回答者のご所属と年齢構成を表 1 および 2 に示します。55.9%が大学に所属する会員で、次いで 26.6%が企業に所属する会員からのご回答となっています。年齢層としては「50～59 歳」を中心に幅広い年齢層からご回答をいただきました。

実施期間：2023 年 1 月 18 日から同年 2 月 1 日

実施方法：Google Form を用いた無記名アンケート

対象：正会員（1 月 18 日時点 1055 名）

回答数：413 件 （回答率 39%）

アンケート質問概要

質問 1～2 回答者の所属および年齢

質問 3 2022 年 9 月の議決権行使書（議案 1）での選択結果について

質問 4 3 学会統合の時期について

質問 5～7 賛成、反対、白票とした理由について

質問 8 自由記述

（各質問内容の詳細は後述します）

表 1.回答者の所属構成

回答者所属	人数	%
大学	231	55.9
国公立研究機関	14	3.4
公設試験機関	31	7.5
協会、社団法人等	5	1.2
企業	110	26.6
その他	20	4.8
未回答	2	0.5
合計	413	100

表 2.回答者の年齢構成

回答者年齢	人数	%
20～29 歳	8	1.9
30～39 歳	64	15.5
40～49 歳	99	24.0
50～59 歳	132	32.0
60～69 歳	81	19.6
70～79 歳	16	3.9
80～89 歳	8	1.9
90 歳以上	0	0
未回答	5	1.2
合計	413	100

2. 2022 年 9 月の議決権行使書（議案 1）での選択結果について

議決権行使書の議案 1（3 学会統合への賛否）に関して、「賛成」、「反対」、「白票」、「返送なし」に対する人数と比率は表 3 に示した結果となりました。実際の議決権行使の結果は、賛成 700 票、反対 121 票でしたので、それぞれの 42.4%、64.5%の方がアンケートにご協力いただきました。統合に反対された皆様より積極的にご意見をいただいたこととなります。

表3. 回答者における議案1への選択結果（表中の％はアンケート回答者・回答数に対する割合を示します。以下同様です）

昨年9月に実施した3学会統合に関する議決権行使書の議案1では、以下のどちらを選択しましたか？1つお選びください	人数	%
3学会の統合に賛成	297	71.9
3学会の統合に反対	78	18.9
議決権行使書は返送したが、賛成・反対の意思表示はしていない（白票）	13	3.1
議決権行使書を返送していない	25	6.1
合計	413	100

3. 議決権行使（議案1）で「賛成」票を投じられた方の当該意見選択の理由

「賛成」票を投じられた方が、その判断を選択されるに至った意見に近いものを2つ選択していただきました。その結果を表4にまとめました。「統合による交流や活性化に期待」が最も多く選択されました。その次が「運営効率化・財政改善」、「アクセスルート1本化」となっています。

表4. 「賛成」票を投じるに至った理由

そのご意見に至った理由のうち、あなたのご意見に近いものを2つまで選択してください	回答数	%
1 会員間の学術的な交流や活性化が期待できるため	164	27.6
2 産学連携の機会増が期待できるため	63	10.6
3 統合により他分野、行政、海外からのアクセスルートが1本化されるため	106	17.8
4 会員増や運営効率化による財政改善が期待できるため	117	19.7
5 企画・学会誌編集・委員会などの運営負担が軽減されるため	70	11.8
6 複数学会に所属しているため会費負担が軽減されるため	54	9.1
7 その他	21	3.5
合計	595	100

「その他」を選択された方の意見として以下の回答がありました。

- ・3学会が似ているのでまとめると良い。
- ・会員の絶対数減少に伴い学会維持には統合が必要と感じたため。
- ・統合が否決された場合の混乱を回避するため（消極的賛成）。

- ・国内の規模が小さな学会では国内の有志の集まりに過ぎず、世界的な学術・研究の流れから疎外される。
- ・川上から川下までのエコシステム全体での社会課題（例えば SDG s）を議論する受け皿と成りえる。
- ・支部行事では単独開催の方が珍しく、ほとんど何らかの共催で開催されている。
- ・技術が 3 学会統合により、繊維材料に関連する技術情報や動向などが散逸することなく一元化されることを期待。

4. 議決権行使（議案 1）で「反対」票もしくは「白票」を投じられた方の当該意見選択の理由

「反対」票を投じられた方が、その判断を選択されるに至った意見に近いものを 2 つ選択していただきました。その結果を表 5 にまとめました。「統合に向けた進め方に疑念が生じたため」が最も多く選択されました。その次が「事務局の東京・大阪の 2 局化の問題」となっています。最後の自由記入欄でも沢山のお叱りの声を頂戴しましたが、統合の提案に至るまでの議論内容や統合後の学会運営についてのご説明が不足していたことを改めて痛感した次第です。

表 5. 「反対」票を投じるに至った理由

そのご意見に至った理由のうち、あなたのご意見に近いものを 2 つまで選択してください	回答数	%
1 学会名の変更（繊維学会→日本繊維学会）	14	7.3
2 事務局の東京・大阪の 2 局化の問題	40	20.8
3 学会財政上の不安	22	11.5
4 学術誌 JFST のインパクトファクター喪失のリスク	23	12.0
5 統合による学術的なメリットが感じられない	30	15.6
6 年次大会などの学会行事運営の混乱を懸念	12	6.3
7 統合に向けた進め方に疑念が生じたため	43	22.4
8 その他	8	4.2
合計	192	100

「その他」を選択された方の意見として以下の回答がありました。

- ・統合後の運営方針がわかりにくかった。
- ・詳しい事は判らないから。

- ・統合のメリットを何点かおっしゃっていましたが、統合を急ぐ理由が曖昧のまま強引に統合が進められている印象を受け、不信感が募り反対しました。
- ・「統合時に決めておくべき事項（お金・財産関係など）」と「統合後運営を行いながら決める事項」があると思う。前者について、十分な検討がされていないと感じた。
- ・統一後の旧学会の資産（動産、不動産等）の整理統合計画について、明確なビジョンとロードマップを示してほしい。
- ・統合に至った経緯や、メリット・デメリット、その他の事項について深く理解しているわけではないため、主張することを控え、議長に一任した。
- ・当然承認されるだろうが、混乱などないようにお任せするつもりで白票でした。
- ・2と3、1と4は同じ課題です。統合のメリットは財政問題の解決だと思いますので、事務局を1つに決定することを先送りにしている限り、賛成しません。
- ・「賛成派」と「反対派」の意見が平行線で議論が進んでいないように見えた。
- ・2、4を上位の理由に挙げましたが、同レベルで7も大きな理由です。また、1が4に影響し、2が3の問題を生じさせると判断しました。
- ・理事・幹事の先生方で意見がまとまっていない状況で、賛成派、反対派からそれぞれ票を投票してほしいとのメールがまいりました。基本的には私は統合には賛成しているのですが、運営を行なっている先生方の意見がまとまっていないのに急いで統廃合の投票をしたやり方に問題があったのではないかと考えます。また、一部、噂ですが、今回の否決によって理事・幹事の先生方の辞任等があるのでは？という話を耳にします。そんなことはあってはならないことだと思います（繊維学会の内部抗争で学会が分断するのだけはぜひ避けてください）。反対票を投じたことにも責任を感じておりますが、3学会が良い方向で統合に向けて動いていくことを期待しております。そのためにも、運営面に携わる先生方が一丸となって会員に良い提案をしていただくことを期待しております（特に、今回、反対を勧めていた先生方の責任が重大だと存じております。賛成派の先生方ともう一度しっかりご議論いただきたいと存じた次第です）。
- ・Q5の質問の仕方は、プライドで日本繊維学会へと学会名変更を強行することでJFSTのリスクが発生することや、単に事務2局化の問題だけでなく、大阪事務員さんの高額人件費と大阪事務局賃貸費・マンション塩漬け管理費の合計が莫大である故に、繊維学会単独より財政危機になると考えられることなど、相互に深く関連して1つの大きなデメリットになる不可分な事項が、別々の選択肢となっていて、本質を言い表すのが難しいです。7を選んだ会員が少ないからといって、不誠実な進め方が容認されたわけではないでしょう。

5. 議決権行使（議案1）で葉書を返送されなかった方の理由

議決権行使の葉書を返送されなかった方の理由を表6にまとめました。「賛成」を投じる予定ながら失念しておられた方が8名おられたことは痛恨の極みです。オンライン投票など会員様の利便性の高い投票手段を用意すべきであった等の反省材料とさせていただきます。

表6. 議決権行使の葉書を返送しなかった理由

返送しなかった理由を次のうちから1つ選択してください	回答数	%
1 失念していた（賛成で返送の予定だった）	8	32.0
2 失念していた（反対で返送の予定だった）	1	4.0
3 返送しないことで「反対」の意思を（消極的に）表現した	8	32.0
4 3学会統合に興味がないため	3	12.0
5 その他	5	20.0
合計	25	100

「その他」を選択された方の意見として以下の回答がありました。

- ・会員ではなかった(11月入会)。
- ・学会参加実績が少なく、統合の是非を判断できないため。
- ・産後休暇中だったため。
- ・入会前だったため。

6. 今後の3学会統合時期に関して

今回の統合議案は正会員の3分の2の賛成をいただくことができずに否決されました。しかし、過半数の方は統合に賛成されており、また、繊維の学術・産業を取り巻く環境は大きな変化を続けています。今後も3学会の統合の議論は継続すべきと考えます。その議論の参考とするために今後の統合時期についてお聞きした結果を表7、8と図1にまとめました。表7より、「時期は指定できないが、課題が解決し樹が熟せば統合すれば良い」と考える方が最も多く、一方、「未来永劫にわたって統合の必要なし」と考えておられる方は12名と大変少ないことがわかりました。表8および図1は、「賛成」、「反対」、「白票」、「返送なし」という回答をいただいた方が、統合時期に対してどのようなご意見だったかを人数と比率で示したものです。「賛成」票を投じられた方の44.4%がすぐに審議を行うべきと考えており、29.6%の方が「課題が解決し機が熟せば統合すれば良い」と考えていることがわかりました。賛成された方でも多くの方が課題の解決が重要であることを意識されていることが示されました。一方、「反対」票を投じられた方でも67.9%の方が「課題が解決し機が熟せば統合すれば良い」と考えていることがわかりました。何があんでも統合反対という訳ではなく、今後も統合を視野に入れた学会運営を容認されていることがうかがえました。

表 7. 今後の 3 学会統合に時期に関する意見

Q7 現在のあなたの意見に最も近いものを以下の選択肢から 1 つ選んでください	人数	%
1 すぐに（例えば 2023 年度中に）、再度 2022 年 9 月と同様の統合審議を行うべき	140	33.9
2 2024～2025 年に統合審議を行うべき	70	16.9
3 統合は 5～10 年後に実現できれば良い	22	5.3
4 統合は 10～20 年後に実現できれば良い	3	0.7
5 未来永劫にわたって統合の必要なし	12	2.9
6 時期は指定できないが 課題が解決し機が熟せば統合すれば良い	166	40.2
合計	413	100

表 8. 今後の 3 学会統合に時期に関する意見（層別）

	賛成	反対	白票	返送なし
	人数	人数	人数	人数
1 すぐに（例えば 2023 年度中に）、再度 2022 年 9 月と同様の統合審議を行うべき	132	1	0	7
2 2024～2025 年に統合審議を行うべき	61	7	1	1
3 統合は 5～10 年後に実現できれば良い	15	5	1	1
4 統合は 10～20 年後に実現できれば良い	0	2	1	0
5 未来永劫にわたって統合の必要なし	1	10	0	1
6 時期は指定できないが 課題が解決し機が熟せば統合すれば良い	88	53	10	15
合計	297	78	13	25

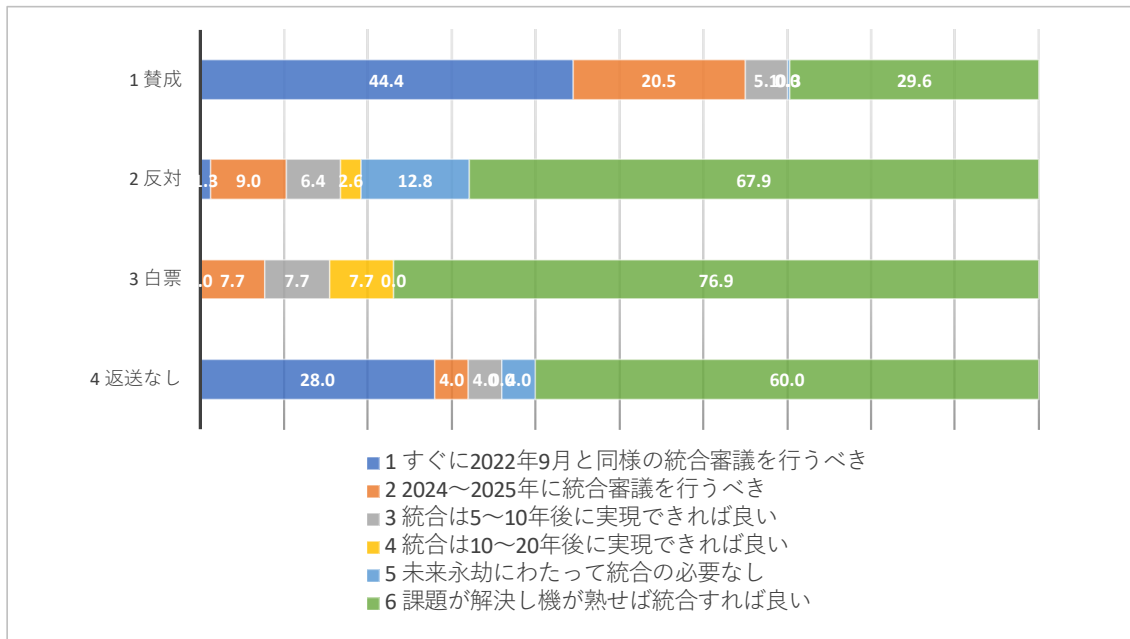


図1. 今後の3学会統合に時期に関する意見の割合

7. 自由記述について

「賛成」、「反対」、「白票」、「返送なし」の方から、それぞれ116件、35件、6件、8件の貴重なご意見をいただきました。いただいたご意見をこの場でお示しすることは控えますが、貴重なお時間を割いて本当に繊維学会を思うお気持ちをお伝えいただきましたこと心から御礼申し上げます。ひとつひとつのご意見を今後の参考とさせていただきます。

8. まとめ

今回のアンケートで、統合に賛成されている方でも約3割の方が課題を解決した上での統合を望んでおられること、一方、統合に反対のご意見の方でも6割強の方が課題解決後ならば統合すれば良いと考えておられることがわかりました。また、今回の統合提案に至るまでのご説明や統合後の方針・財務予測のご説明が不十分であったことも再認識できました。今回のアンケートによって、全会員のご意見を調査できていないことは念頭に置きつつも、3学会統合の検討継続が必要事項であることが確認できたと考えております。いただいたご意見を参考にしながら、今後も他学会との対話を継続し問題解決に取り組んでゆく所存です。最後になりましたが、貴重なお時間を使ってアンケートにご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。